

ライフケアガーデン湘南 3階

症 例 概 要 利用者：90代 女性 要介護1

利用期間：2018年8月～2022年4月

主疾患：高血圧、アレルギー性鼻炎、難聴、胃潰瘍、IPMN（膵管内乳頭粘液性腫瘍）

終末期ケアのご入居者に、夢であったご自宅への一時帰宅を、ご家族と叶えることができた事例

内 容

ご主人が他界後、C市で一人で暮らしており当ホームのショートステイを定期的にご利用していました。そんな中、胃潰瘍で入院となり退院後に独居生活は難しく、ご家族もショートステイで慣れている当ホームへ入居となりました。

入居当初より帰宅願望が聞かれましたが、しりとりや歌のレクリエーション等に積極的に参加されることから、施設イベントや行事、日々のレクリエーションに参加して頂き、毎日を過ごして頂いた。

2019年12月ご家族と自宅へ外出した際に、ご本人はご家族と暮らせると思い込み、帰設後も家に帰りたいと話される。少しずつ認知症状が進行していく中、帰りたい気持ちが大きくなり、どうして帰れないの?と、感情が表に出てしまうことが増えるようになる。

その後、新型コロナウイルスにより外出や面会も難しくなり、ご家族と電話で話され、電話後は落ち着かれる様子もみられた。ご家族と電話が出来ない日もあり、どうして帰してくれないのと大きな声を出したり、荷物をまとめて今日帰れると聞いたと話される事もあった。その都度傾聴を行い、時には事務職員にお声を掛けて頂き、不穏緩和に努めた。

2020年10月頃より体調悪化O2開始。徐々に活気が無くなり、食欲低下や歩行も難しくなる。ベッド上での生活が多くなり、居室での対応が主となる。腹部の痛みが強く、声出しも聞かれ表情が険しい中で、少して良いから家を見たいと言われる。

看護・介護・ご家族にて話し合いを実施。ご本人からの思い、最後の希望を叶える為に、2022年3月下旬にご自宅へ帰宅する。コロナ禍でありながらも、ご家族と穏やかに過ごされる。ご本人から涙を流し、ありがとうと感謝の言葉を頂きスタッフ一同で感無量の思いとなった。

4月中旬永眠される。ご家族から最後に自宅に戻れて、ご本人の希望が叶えられて良かったと言葉を頂く。今年度のスローガン「愛情を持って親身な対応」とは何かを利用者さんより教えて頂きました。